

【W3】音階であそび、音階でイメージする

【講師】 小山 隼平

【要旨本文】

メロディーは、音楽を構成する要素の中でもっとも重要なものです。どんな曲なのか問われたときには、多くの人がメロディーを口ずさんでそれを伝えるでしょう（リズムパターンやハーモニーでそれをする人には、私はお会いしたことがありません）。つまり、その音楽を一番代表しているもの、ということができるのではないのでしょうか。

このメロディーを作る上で鍵になるのが音階や旋法です。メロディーの素材を高さ順に並べたものが音階、さらに音ごとになんらかの役割を持たせたものが旋法です。つまり、これらはメロディーを作るためのガイドになるものなのです。

今回は、既存のメロディーで使われている旋法を入れ替えて、まったく雰囲気を変えてみたり、おかしなものにしてしまったりしてみようと思います。悲哀に満ちたラジオ体操や、情熱的な《クラリネットをこわしちゃった》ができるかもしれません。

また、この作業をとおして、音階がもたらすイメージや雰囲気について考えることにもつながります。実際の楽曲での使われ方にも目を向けて、参考にしていきたいと思います。

【講師プロフィール】

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、北海道教育大学大学院教育学研究科修了。2008年奏楽堂日本歌曲コンクール・一般の部で、寺山修司の詩による「四つのちぎれた歌」が第1位を受賞。第2回 TIAA 全日本作曲家コンクール・室内楽部門では「オーボエ五重奏曲」が第2位を受賞。北海道教育大学教育学部教員養成課程非常勤講師。